

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
E1121014	ピアノ (伴奏を含む。) (Piano)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用	後期	月5	日本語		単独					
担当 教員	氏名 田中 星治 E-mail tanaka@oita-u.ac.jp 内線 7618												
授業 の 概 要	ソナチネ、ソナタ程度のピアノ曲を演奏により実技指導し、歌唱教材の表現のポイントを伴奏から見出す。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	ピアノを踏まえ、さらにピアノの技法を高めることができる。												
目標2	歌唱教材を中心とした伴奏法を扱い、伴奏としてのピアノの役割を工夫し、表現力を高める												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							7	3					
授業の内容													
1	ガイダンス												
2	歌唱伴奏の意義(1)伴奏技術について												
3	歌唱伴奏の意義(2)伴奏表現について												
4	伴奏の技法について(1)技術面について												
5	伴奏の技法について(2)表現について												
6	伴奏譜の表現上のポイントについて(1)読譜について												
7	伴奏譜の表現上のポイントについて(2)演奏面について												
8	歌詞の内容に沿った伴奏表現について(1)技術面について												
9	歌詞の内容に沿った伴奏表現について(2)表現について												
10	ピアノにおける伴奏のポイントについて(1)技術面について												
11	ピアノにおける伴奏のポイントについて(2)表現について												
12	伴奏におけるペダルの活用について(1)技術面について												
13	伴奏におけるペダルの活用について(2)表現について												
14	歌唱を引き立てるための伴奏の効果について												
15	実技試験に向けてのまとめ												
ラ イ ク ニ テ ィ グ ブ	A:知識の定着・確認	ピアノ演奏を通して、音楽表現に必要な演奏技術を身につける。さらには楽曲の表現の可能性を模索し、作品を通して受講者の主体的な演奏技法を引き出すことを目指す。					工 夫 そ の 他 の	ピアノ実技なので、個人指導、およびグループ指導を行い、学生とのディスカッションの中で、解釈の可能性を探る。					
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	与えられた課題を前もって準備する。ハノンや指のトレーニングのための教材を活用する。(10h)											
	事後学修	授業で行った内容を再確認し、事後の練習に生かす。(13h)											
	想定時間合計	23											
教科書	中学校の歌唱教材、中学校学習指導要領解説 音楽編												
参考書	そのつど指定する。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	授業への取り組み	40%										
	期末試験	60%										
	評価については、具体的な到達目標で掲げた内容について、実技試験で評価する。											
注意事項	毎日の練習の積み重ねが重要。											
備考	特になし。											
リンク												
	URL											